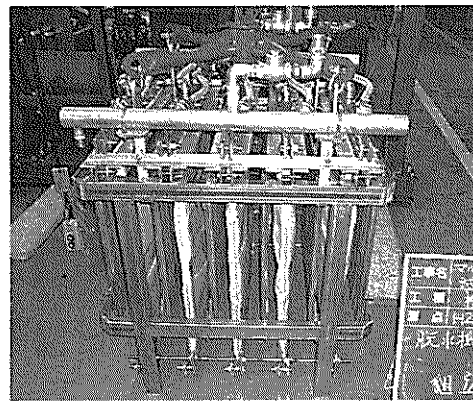


# 宇部工業・信大など新工法

## 泥を水と土に安く分離

### 中空板使用 費用2〜6割削減

地場大手建設業の宇部工業(山口県宇部市、河野光伸社長)は信州大学などと共同で、しゅんせつや下水工事などで発生する泥土を、特殊な脱水機や真空ポンプで土と水を分離する工法を開発した。泥土は輸送が難しい上、廃棄できる場所も少ない。泥土の種類・含水率により体積を半分から100分の1程度に減らすことができ、様々な建設現場への導入が見込めるとして、建設業者などに装置を売り込む。



泥土はそのまま廃棄するか、凝集剤や石灰で固めて油圧機械で圧縮するしかない。凝集剤を使う場合は処理費用の高い産業廃棄物になるため、そのまま廃棄する方法が主流となっている。

新装置は「マルチドレ」中空のプラスチック板を特殊シートで覆ったものを何枚も組み合わせた。真空脱水装置」と名付けた。脱水機には水を吸い出す中空構造のプラスチック板を土を通さない特殊なシートで覆い何枚も並列に重ねて取り付けた。脱水機を泥土に入れ、土と分離させた水だけを板から真空ポンプで吸い出す仕組み。シートに付着した土は乾燥させて回収する。泥土の種類や含水率に応じて自動制御する。工法は6月に特許を取得した。

泥土の種類、含水率によって処理量は大きく異なるが、脱水機の中空プラスチック板の表面積が7・2平方メートルの試作装置で、1日当たり7トから10ト程度の泥土を処理できるという。処理費用も凝集剤で産業廃棄物として処理する場合に比べ2〜6割程度削減できる。

また、同じ装置で貯水池や工場の調整池などの水の濁りを取り除き、そのまま河川などに排水できるようにする使い方も想定。こうした濁水については1日50ト程度を処理でき、費用も3〜8割削減できるといふ。

同社は2003年から開発に取りかかり、信州大工学部の梅崎建夫准教授、錦城護(大阪府八尾市、太田泰造社長)と共同研究を進めてきた。試作機は800万円で作したが、今後、様々な規模の需要に対応する機器作りを進める。

定期的にしゅんせつが必要なる湖沼や下水工事などで大量に発生する泥土や汚泥は、運搬の難しさや処理場不足などで工事を断、近く国土交通省が公

開しているNETIS(新技術情報提供システム)にも登録する考えだ。

尾市、太田泰造社長)と共同研究を進めてきた。試作機は800万円で作したが、今後、様々な規模の需要に対応する機器作りを進める。

定期的にしゅんせつが必要なる湖沼や下水工事などで大量に発生する泥土や汚泥は、運搬の難しさや処理場不足などで工事を断、近く国土交通省が公

開しているNETIS(新技術情報提供システム)にも登録する考えだ。

開しているNETIS(新技術情報提供システム)にも登録する考えだ。

開しているNETIS(新技術情報提供システム)にも登録する考えだ。

開しているNETIS(新技術情報提供システム)にも登録する考えだ。